

製品安全データシート

製造者情報

会社名 株式会社コートテック

住所 横浜市青葉区新石川3-3-1 西山ビル4F

担当部門 技術部

電話番号 045-910-6646

FAX 番号 045-910-6647

整理番号 0805

作成・改定 平成15年9月12日

製品名

BS-9

1 成分の構成／情報

1. 1製品区分(単一製品 or 混合物)

混合物

1. 2化学特性(物質);

CAS.No.	化学物質名	添加量(%)
	オルガノポリシロキサン	57
67-56-1	メタノール	15
67-63-0	イソプロパノール	13
71-36-3	n-ブタノール	20

1. 3国連分類及び国連番号

1263

2 危険有害性の分類

2.1 引火性液体

燃えやすい液体であり、蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

2.2 急性毒性物質

有機溶剤中毒を起こす恐れがある。

3 応急措置

3.1 目に入った場合

直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受ける。

3.2 皮膚に付着した場合

付着物を布にて素早くふき取り、大量の流水及び石鹸又は皮膚用洗剤を使用し、十分に洗い流す。(溶剤及びシンナーは使用しない)また、外観に変化が出たり、痛み等が生じた場合には、医師の診断を受ける。

3.3 吸引した場合

蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静にし

保温する。呼吸が不規則か、停止している場合には、人工呼吸を行なう。また、嘔吐物は飲み込まないようにし、直ちに医師の診断を受ける事。

3.4 飲み込んだ場合

誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受ける事、また、嘔吐物は、飲み込ませない。

4 火災時の措置

4.1 消化方法

【消化要領】①消化は粉末、二酸化炭素、泡消化剤等で一挙に消化する。

②大規模火災の際には、泡消化剤を用いて空気を遮断することが有効である。

③注水は周囲への延焼防止、又は容器の冷却とする。

【消防活動装備】防護衣、空気呼吸器、循環式酸素呼吸器、ゴム長靴。

4.2 消化剤

霧状強化液・泡・炭酸ガス・粉末が有効である。

5 漏出時の措置

5.1 作業の際には、適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。

5.2 着火した場合に備えて、適切な消化剤を準備する。

5.3 付近の着火源・高温体及び可燃物を取り除く。

5.4 流出物は、火花が発生しないように、プラスチック製等の用具を用いて密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。

5.5 単独での回収が困難な場合は、乾燥砂、土、その他不燃性の物を吸収させて回収する。

5.6 付着物、廃棄物等は、関係法規に基づいて処理する事。

5.7 河川等に排出され、環境への影響を起こさないようにする。

6 取り扱い及び保管上の注意

6.1 取扱い

周辺に火気、スパーク、高温物がない、換気の良い場所で取扱い、保管容器は、その都度密栓する。また、静電気対策の為。装置等は接地(アース)し、電気機器類は防爆型(安全増型)を使用する。換気の悪いところでの作業の場合は、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。

6.2 保管

直射日光を避け、火気、熱源から離れた、換気のよいところに保管する。

7 暴露防止措置

7.1 管理濃度

物質名	管理濃度	ACGIH(TLV)	IARC	その他の有害性
メタノール	200ppm	200ppm	—	LD50 : 5628mg/kg
イソプロパノール	400ppm	400ppm	—	LD50 : 5045mg/kg
n-ブタノール	50ppm	400ppm		LD50 : 5045mg/kg

7.2 許容濃度

日本産業衛生学会(1996年度版):

ACGIH(1996~7年度版)

7.3 設備対策

取扱いについては、出来るだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。ミスト及び蒸気が発生する場合は、発生源の密閉化、防爆タイプの排気装置を設ける。

取扱い場所の近辺に洗眼及び身体洗浄の為の装置を設ける。

7.4 保護具

ミスト、蒸気が発生する場合は、防毒マスク(有機ガス用)を使用する。

接触が有りそうな場合は、側面シールド付き防護メガネ、長袖の上衣及び耐油性手袋を使用する。

8 物理/化学的特性

8.1 外観等 :透明或いは微黄色透明な液体

8.2 沸点 :知見なし

8.3 比重 :1.12(at20°C)

8.4 融点 :知見なし

8.5 水溶解度 :非水溶性

9 危惧性

9.1 引火点 :4.0°C以下(タグ密閉式引火点測定装置)

9.2 発火点 :200°C以上

9.3 爆発限界 :知見なし

9.4 可燃性 :強い可燃性がある。

9.5 自己反応性・爆発性 :知見なし

9.6 発火性(自然発火性、水との反応性) :知見なし

9.7 安定性 :通常の取扱い条件においては安定

9.8 反応性 :通常の取扱い条件においては安定

10 有害性情報

- 10.1 皮膚腐食性 :皮膚を刺激し、炎症を起こす。
- 10.2 刺激性 :皮膚、眼、鼻、喉を刺激する。
- 10.3 感作性 :現在のところ有用な情報はない。
- 10.4 急性毒性 :現在のところ有用な情報はない。
- 10.5 亜急性毒性 :現在のところ有用な情報はない。
- 10.6 慢性毒性 :現在のところ有用な情報はない。
- 10.7 ガン原性 :現在のところ有用な情報はない。
- 10.8 変異原性 :現在のところ有用な情報はない。
- 10.10 生殖毒性 :現在のところ有用な情報はない。
- 10.11 その他 :誤飲した場合、胃の粘度を刺激し、嘔吐、胃痛、下痢等の症状を起こすことがある。また、飲みこんだ本溶剤が肺に吸収されると、肺組織の内出血、肺水腫、化学性肺炎等を起こすことがある。

11 環境影響情報

- 11.1 分解性 :現在のところ有用な情報はない。
- 11.2 蓄積性 :現在のところ有用な情報はない。
- 11.3 魚毒性 :現在のところ有用な情報はない。

12 廃棄上の注意

- 12.1 焼却処分にあつたつては、焼却炉の火室に噴霧するか、大鋸屑、ウエス等に吸収させ焼却炉で少量づつ安全に処理する。
- 12.2 大量の処理は、産業廃棄物処理業者に依頼する。
- 12.3 海、河川、湖その付近及び排水溝に破棄してはならない。
- 12.4 自治体の指示に従い、関係法令の定めるところによる。
- 12.5 投棄禁止。

13 輸送上の注意

- 13.1 運搬に際しては、容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、傷害がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう。
- 13.2 運搬容器及び包装外部に、品名、数量、危険等級及び『火気厳禁』の表示の表示をする。
- 13.3 指定数量以上を車両で運搬する場合は『危』の標識を車両前後に表示し、消化設備を備える。
- 13.4 陸上輸送の場合、運搬時の積み重ね高さは 3m以下とする。
- 13.5 危険物第 4 類、第一石油類の一般的注意が必要。
- 13.6 その他関連法令の定めるところに従う。

14 適用法令

14.1 労働安全衛生法	: 施行令別表 1 危険物(引火性のもの)
14.2 消防法	: 第2条危険物第4第1石油類水溶性液体(200L)
14.3 船舶安全法	: 第3危険物告示別表第5(引火性液体類)
14.4 航空法	: 施行規則第 194 条告示別表第3引火性液体
14.5 港則法	: 施行規則第 12 条危険物告示引火性液体類
14.6 道路運送車両法	: 危険物、爆発性液体
14.7 海洋汚染防止法	: 施行令第 1 条の2
14.8 下水道法	: 鉱油類排出規制
14.9 水質汚染防止法	: C 類物質(144)
14.10 廃棄物の処理及び清掃に関する法律	: 産業廃棄物規制
14.11 PRTR 法	: 該当物質なし。

15 その他

以上の情報は、現時点で得ている情報に基づくものであり、製品の危険、有害性に関しては、十分なものではありません。注意事項は通常の実施を対象としており、特殊な取扱いの場合には、この点のご配慮をお願い致します。記載内容のうち、含有量、物理化学的性質などの値は保証値ではありません。